

愛知みずほ大学短期大学の教養演習としての科目の 「仕事と人生」の取り組みの報告

福江昭子 神戸美枝子 横山洋子

教養演習「仕事と人生」の取り組み

本講では「女性のための女性についての学問」から「女性の視点を意識的に重視しつつ人間についての学問」として発展してきた。女性学的な意識をもって授業を進めると同時に、2005年度より仕事に就く実務的な事柄も学ぶようになった。従来は2回生前期に時間割に組み込んでいたが、昨今の社会情勢として年々就職活動も早まり、2006年からは1回生後期に移動し今日に至っている。

また、就職に関わる内容が盛られるようになってから受講登録をするときに「受講するのが望ましい」と指導している。ちなみに本年度は91%の受講率である。

2007年度の講義内容（タイトル）

- 第1回 仕事と人生と就職について
担当教員 福江昭子 神戸美枝子
- 第2回 社会を変えた女性
担当教員 福江昭子
- 第3回 生物学から見た人間社会、家族
担当教員 小長谷紀子
- 第4回 仕事で活躍する女性
担当教員 水野早苗
- 第5回 進路決定と活動のありかた
担当教員 神戸美枝子 横山洋子
- 第6回 就職情報とその活動
担当教員 神戸美枝子 横山洋子
- 第7回 仕事の適性とその検査
担当教員 横山洋子
- 第8回 企業の求める人材
担当教員 神戸美枝子 横山洋子
- 第9回 自己表現（1）
担当教員 神戸美枝子 横山洋子
- 第10回 対人作法と敬語について
担当教員 神戸美枝子 横山洋子

第11回 自己表現（2）

担当教員 神戸美枝子 横山洋子
伊藤彰茂

第12回 就職の現状

担当教員 横山洋子 伊藤彰茂

第13回 働く先輩の話を聞く

担当教員 神戸美枝子 横山洋子

第14回 男の脳、女の脳

担当教員 西山明德

第15回 東洋、西洋の女性 まとめ

担当教員 福江昭子 荒井迅子

以上のように、本年度の講義内容を組んだが、原則として前半は女性学的なもの、後半は就職に関わる講義を行うよう心がけているが、担当教員の仕事の関係で多少調節を行っている。しかし就職に関わる講義の途中で、女性学的なものを差し込むことは避けている。講義はオムニバス形式であるため担当教員専門の凝縮されたものが語られ受講生の授業評価は良好である。

また、評価の方法はB5版で表紙、講義タイトル（目次的なもの）、各回1ページ毎に月日、時間、その時のタイトル、担当教員名、講義の概略や感想を記させる冊子を用意し、毎年全員に配布している。それを講義最終日に提出させ、理解度を見ることと、規程以上の出席があるかどうかで評価している。

「仕事と人生」の本年度に至るまで

2000年から2004年までの講義は、1~2名の教員で15回の講義をこなしていた（2回生前期）。

ちなみに2004年の講義内容の概略は「女性と仕事と人生」「女性学の視点の新鮮さ」「ジェンダーフリー」「仕事で活躍する女性」「話題になっている女性」社会を変えた女性」などである。

2003年にはいり、学生の出口の重要性の議論も

高まり、就職に関することも必要と各種の会議でもちあがり、「仕事と人生」の中に就職の事項をいれることが決定した。その時、先にも述べたように受講登録するときには「就職に関することが述べられるので受講が望ましい」と指導したので、今迄より多数の者が受講するようになった。当時は受講時が2回生前期のため次のような講義内容で始め、数人の教員で担当した。内容は「進路決定と活動のありかた」「就職情報とその活用」「仕事の適性と検査方法」「敬語の基礎知識」「対人作法と敬語」「文書表現」「就職の現状」「愛と性」「男の脳、女の脳」「結婚と子育てと仕事」「仕事と人生（男の生き方）」「仕事で活躍する女性」「西洋の女性と洋の女性」「話題になっている女性」「仕事と人生ディスカッション」などであり、この頃から現在の方角の基礎作りをした。またそれに基づいて、毎年修正も加えている。

日々、刻々変化し進歩する時代であるので、それらのことを質問してくる多くの学生の要請に応えられるよう担当者は日々努力を重ねなくてはならないと考えている。

(愛知みずほ大学短期大学部
仕事と人生担当者一同)